

夢大会 大会約款

(大会特別規定)

本大会は、少年野球団体が交流することにより、少年野球の発展に寄与することを目的とする。

上記目的に賛同する団体は、主催者と各団体代表者による実行委員会の承認をもって、出場することができる。

大会運営にあたり、下記の大会特別規定を定める。

- ① 本大会に参加できる選手は所属団体の規定を満たす者とする。
- ② チームは所属団体の規定を満たすチームとし、25名以内の選手で編成すること。またベンチに入ることの出来る監督・コーチ(スコアラー含む)は4名までとする。選手、監督・コーチは原則として同一のユニフォームを着用すること。ただし、所属団体に別の規定を有する場合、それを優先する。背番号は所属団体の規定の通りとする。(ボールボーイ2名は各チーム登録外選手でもよい。)
- ③ 本大会出場登録選手が試合当日に10人に満たない場合は、そのチームの当該試合を不戦敗として取り扱う。
- ④ 試合時間:1時間50分を超えて新しいイニングに入らない。
- ⑤ 本年度公認野球規則と下記の細則により、試合を行う。
 - (a) 同各チームの主将は、試合開始予定時刻の40分前または前試合4回終了時に所定のメンバー表を本部に提出し、同時にチーム1B指導者・審判員立会いの下で攻守を決める。又、投手投球可能投球数を確認する
 - (b) 各試合は7回戦で行い、降雨その他の理由により試合続行不可能な場合、4回終了をもって正式試合とし、それ以前の'玩合は再VIII試合とする。にの場合審判員協議の上で決定する。)試合成立後は開始から1時間50分を超えた場合、新しいイニングには入らない。(決勝戦も同様とする。)
 - (c) 得点差によるコールドゲームは4回以降に10点差、5回以降に7点差以上に成った場合に成立する。
また、正式試合となった後降雨等により試合の途中で中止された場合は規則書4.11(d)【注】をもって勝敗を決する。なお本大会はサスペンデッドゲームを適用しない。但し、雨天中止で同点の場合は最終回出場選手9名による抽選とする。(4回を終了していない場合は再試合とする。)
 - (d) 7回を終わって同点の場合は1回のみタイブレークを実施し、なおも同点の場合は最終回に出場のメンバー全員の抽選とする。なお、タイブレークは1アウト満塁、継続打順で行う。
 - (e) 回投球数制限
 - 1) 投手は1日最大即80球以内とする。打席の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。但し、制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。
 - 2) 打席の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。但し、制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。
 - 3) 連続する2日間で120球を超える投球をした投手並びに3連投をした投手は、登板最終日及び翌日は捕手として試合に出場することは出来ない。
 - 4) ダブルヘッダーの両試合への登板は2連投(連続する2日間で2試合に相当)としてカウントする。但し、当日の両試合での合計投球数は80球以内とし、前日または翌日の連続する2日間で3試合に登板する場合は3連投健続する3日間で3試合に相当)となるので1試合の投球数は40球以内とする。
 - 5) ボークは投球数としない。牽制球も投球数にはカウントしない。
 - 6) 申告敬遠は原則として投球数にカウントしない。但し、申告直前に実際に投げられた投球はカウントする。
 - 7) 雨天等でノーゲームとなった試合の投球数は当日の投球数にカウントする。投球日数にもカウントし、連投に関する制限を適用する。
 - 8) 投球数記録表様式2を毎試合終了時点で責任審判員を経主し、各大会球場本部に提出する。(様式はヤングリーグ使用分を採用する。
 - (f) 選手が打席に入る時は、必ず亘つきヘルメットをかぶること。また走者になっても危険防止のために必ず着用する。なお、捕手も防護用ヘルメットと所定の防具を着用すること(練習時も含む)
 - (g) 臨時代走は認める。ただし、特別な事情の場合(死球など)に限り少しは休めば試合に出場できると審判が判断した時に適用できる。この場合、その打者に最も近い打撃の完了した(投手・捕手を除く)選手とする。
 - (h) 一試合のタイムの回数は、攻撃時2回・守備時2回までとする。(マウンドに3人以上集まってもタイム1回とみなす)延長に入った場合は、それ以前の回数に関係なく攻撃時・守備時ともに1イニングにつき1回だけタイムを取ることが許される。
 - (i) その他不足の事態が起こった場合は、大会本部の決定に一任する。
- ⑥ 各チームは必ず成人である責任者が引率し、大会中選手のすべての行動ならびに応援に対して責任を負うこと。
- ⑦ 審判に対する申し出は監督が行う。ただし、審判のジャツジには抗議できない。
- ⑧ 傷害処置については、大会中の負傷または疾病に対して応急処置は施すが、それ以上主催者は責を負わない。

大会特別規定・補足

- ① 球場に到着したチームは本部に到着した旨を報告し、オーダーシートを受け取ること。
- ② ベンチは組み合わせ表の左側のチームを1塁側とする。
- ③ グランドインから試合終了まで、ベンチに入ることが出来る者は、監督・コーチ・スコアラー・登録選手のみとする。
- ④ グランドインしたチームは競技委員の指示のもとに速やかに試合前の練習を行うごと。グランドルールがある場合はそれに従うこと。
- ⑤ 試合前のシートノックは行わない。
- ⑥ 試合をスピーディーに行うために以下の項目を守ること。
 - (a) 攻守交替時に守備に移るチームがスピーディーにポジションにつくのはもちろんのこと、攻撃に移るチームも第一打者とベースコーチはミーティング(円陣)に加わらず、所定の位置に速やかに付くこと。
 - (b) 投手は投手板に触れている状態で、捕手からサインを受けること。
 - (c) 打者はみだりにバッターボックスを出ることは許されない。たとえ、タイムを要求しても審判員がタイムを宣告しない時はインプレーとする。
 - (d) 次打者は必ずウェイトリングサークルに入り、膝をういて待機すること。危険防止をぶまえた上で、片膝をういてスイングするごとは場合により認められる。(投手が次打者になる場合も同様である。)
 - (e) 捕手は投手に返球したり、野手に声をかけるために一球ごとにホームプレートの前に出ないこと。
- ⑦ 監督またはコーチがマウンドに行く制限は野球規則8.06を採用するが、投手は自動的に試合から除かれることはなく、につくことができる。また、一度他の守備についた投手が再び投手の位置についても差し支えない。
- ⑧ 四球・故意四球を採用します。野球規則5.05 (b)
- ⑨ コーチスボックスには、監督・コーチ・選手いずれかが位置しても差し支えない。
- ⑩ コーチスボックスにいるコーチャーは相手選手を惑わすような動きをしてはならない。
- ⑪ 選手の手袋などの使用については、対戦チームの不利益にならない範囲で使用を認める。
- ⑫ 次の試合チームは、4回終了後投球練習を1組に限り認める。
- ⑬ ゴミは球場(グラウンド・スタンド問わず)に捨てず、必ず持ち帰ること。スタンドで応援する選手・保護者にも徹底すること。試合会場最終試合チームは勝ち負けに関わらず、会場のゴミ等がないか確認すること。喫煙については、必ず所定の喫煙場所にて喫煙すること。吸殻は試合会場内でむやみに捨てないことを各チーム徹底すること。